

荒川ひろしは反市長派か？

私は、昨年「フレッシュふくち創造の会」という、福知山市長選挙において市長の全国公募の活動を行った代表者です。

私の2期目の選挙では中村市長の推薦をいただき、上位当選をさせていただきました。

「フレッシュふくち創造の会」の代表を決意した理由は、活動の代表が現役の市議会議員ということで、対外的な信用を与えるためでした。

また、その時点で中村市長は入院を要する病気があり、出馬を表明されておらず、健康面等を考えた時、この厳しい時代の福知山のリーダーとしてはふさわしくないのではないかと判断し、選挙というルールの中で福知山を任せられる市長を捜そうといたしました。

「荒川は市長に推薦をもらっておきながら、恩を仇で返すひどいやつだ！」と言う声も多く聞かせていただきましたし、私もそう言われても仕方がないと思っております。

私にできたことは「フレッシュふくち創造の会」の代表として新聞発表される前に市長の自宅に行き、この会の意義と必用性を説明し、「市長には前回の市議会議員選挙で推薦をいただいておりますが、仮に市長が出馬されたとしても応援はできませんので御了承いただきたい」と断りを入れることだけでした。

私がこの活動をしたことにより、支援者を含め多くの方から反発を受け続けております。しかし、私が行った行動を悔やんでもいませんし、間違いだったとも思っておりません。ただ反省するとしたならば、この活動の意義をすべての市民には伝え切れなかったことだと思っております。体調が優れないけれど推薦をいただいた方の恩をとるのか、大きなリスクを抱えつつ福知山の未来に向けた「市長の全国公募」をとるのかの判断であり、私は迷いつつ福知山の未来を選んだ訳です。この選択は議員としての「私」と「公」の決断だとも考えました。

市長公募につきましては、13人の応募があり書類審査・面接審査を行い、最終の公開討論会では市長候補を2名に絞り、市民100名以上を交えて討論と投票を行いました。該当者なしという結果に終わり市長候補擁立を断念いたしました。

私は中村市長当選後もこれまでと同じように、行政に対しては一貫して是々非々で対応しておりますし、行政等で対応できない市民ニーズにもNPO法人やボランティアの力を駆使した活動で市民要望に対応し続けております。

また、(市民憲章・ポンチフェスタ・福祉まつり・市民まつり・差別を許さない子ども育成協議会・ボランティア連絡協議会)等の行政事業などにも極めて積極的に係わって、福知山の発展と活性化に少なからず貢献しており、しいては中村市政を全面的にバックアップしていると自負しております。派という表現をするならば、荒川ひろしは市民派でありたいと考えています。

